



Title	低出生体重児の子育ての現状と支援：「だれ一人とのこさない」視点から
Author(s)	板東, あけみ
Citation	目で見えるWHO. 2026, 96, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105783
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

低出生体重児の子育ての現状と支援 ～「だれ一人とりのこさない」視点から～



国際母子手帳委員会事務局長、リトルベビーサークル全国ネットワーク相談役
NPO法人 ひまわりの会 理事

板東 あけみ (ばんどう あけみ)

大阪大学大学院博士前期課程卒業。日本の低出生体重児家族が使いやすい総称リトルベビーハンドブックの普及のために都道府県の担当部署を回っている。

リトルベビーの子育て

2500g 未満で産まれた子どものことを医学的に低出生体重児（2500g 未満）、あるいは早産児（在胎週数 37 週未満）と言います。現在日本では 10 人弱に 1 人が低出生体重児です。2018 年に静岡県版「しずおかリトルベビーハンドブック」を契機にリトルベビーと（以下 LB）という言い方が社会に広がってきました。

日本では妊婦は妊娠確定後に保健センターで母子健康手帳（以下母子手帳）を受け取り、妊娠期を過ごします。しかし妊娠継続が難しくなると早産となり LB が産まれます。産後の母親は、小さな赤ちゃんを前にして「私が早く産んだせい

で・・・」と強い自責の念と、無事に育つのかという不安と、そして孤立感を持ちます。入院中はずっと涙が止まらなるとよく聞きます。そんな時に不安感からネット検索すると、科学的に正しい説明であっても精神的に不安定な母親にとっては、なかなか心に入りにくく「検索しなければ良かった・・・」と後悔して、また不安になって検索して後悔という繰り返しだそうです。そして母子手帳を見ると、成長曲線の最低の目盛りが 1kg と 40cm で、それより小さな LB の母親は書けない、これは国が私の子どもの存在を認めていないからなのではないかと思いついて落ち込みます。もう 1 つの落ち込みは、健康診査のページの左ページにある、保護者の記録の発育の目安を「は



写真1 全国 47 都道府県の総称リトルベビーハンドブック

い」と「いいえ」で書き込む欄です。この標準と比べる記載様式は、関係者が早期に障がい・病気・困難を見つけると言う意味では効率的かもしれませんが、「いいえ」の数が多い子どもの家族にとって、それが不安感を煽り、記入への拒否反応につながる側面があります。

リトルベビーハンドブック

LB の母親は似た経験をした LB の家族とつながりたいと思っている人達も少なからずいます。静岡、福岡、広島、佐賀など先行して総称リトルベビーハンドブック（以下 LBH）を県に依頼して作成した LB 家族当事者サークル（以下サークル）が SNS で紹介したことから、2019 年から 2021 年前後に全国でサークルが次々と設立されました。私は多くのサークルと都道府県担当者の間になつて LBH 作成依頼や面談のコーディネートをしてきました。そして 2025 年 2

表1 新LBH発行年度(資料作成 筆者)

発行年度	発行冊数	都道府県名
		下線太字：県全体をカバーする当事者が代表のサークルがない所
不明	1	熊本
平成 23 年度	1	東京
平成 29 年度	1	静岡
令和 1 年度	0	
令和 2 年度	5	佐賀 福岡 愛知 広島 岐阜 (静岡版の 7 外国語版)
令和 3 年度	2	山梨 福島
令和 4 年度	26	沖縄 鹿児島 宮崎 大分 長崎 高知 愛媛 鳥取 山口 岡山 兵庫 大阪 京都 滋賀 奈良 三重 福井 石川 富山 新潟 茨城 埼玉 群馬 栃木 宮城 北海道
令和 5 年度	9	香川 徳島 島根 長野 千葉 神奈川 山形 岩手 青森
令和 6 年度	2	和歌山 秋田
合計	47	



写真2 インドネシアのリトルベビーハンドブック

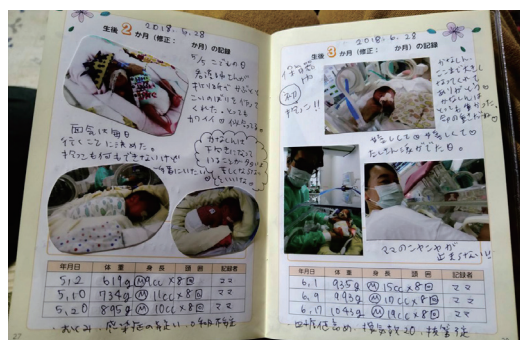


写真3 書ける喜びを込めて記載されたリトルベビーハンドブック (写真提供 栃木県LBサークル「にちららん」)



写真4 リトルベビーハンドブックとともに

月には全都道府県がLBHをもつにいたしました。(表1)

全国のLBHの内容は同じではありませんが、よく似ている点もあります。①LBH内容作成に当事者の思いが入っている、②北海道を除き初版本は各都道府県の自己資金で作成されている、③基本的に新生児集中治療室(以下NICU)で退院前の母親に渡され、地域の保健センターにもおいてある、④LBの先輩家族や医療関係者からの応援の声が記載されている、⑤NICU入院中の治療記録の記載ができる、⑥その子独自の発育に目を向ける様式で発育記録が記入できる、⑦相談先、その地域のサークルなどの連絡先情報が記載されている、⑧LBに起こりやすい合併症などがわかりやすく説明されているなどです。

「だれ一人とりのこさない」

2023年12月に各地のサークルは「リトルベビーサークル全国ネットワーク」

(以下LB全国ネット)を結成し、現在40道府県のサークルが参加しています。2024年1月に国会議員への要望書を提出し、3月にはこども家庭庁と文部科学省の関係機関とLB全国ネット運営委員との面談が持たれました。これを受けて2024年9月にこども家庭庁と文部科学省の連名で事務連絡が発出され、都道府県が協議会を持てば、LBH作成や周知の経費などを国庫補助金からの支出が可能となり、就学猶予については十分に話し合うように、と発出されました。続いて10月には産後ケア、12月には発育曲線の変更が発出され、2025年4月1日からの母子手帳では最低0kgと20cmになりました。2025年5月に乳幼児健診時の配慮について発出され、さらに9月に国土交通省から、授乳室に搾乳室の掲示を加えるようガイドラインが発出されました。このように政府からの改善の動きが次々と示されました。しかしまだ課題は残っています。

現在LBHの配布や治療記録記載の病院によってのバラつきがある反面、初診の医療機関などで重宝される経験も出てきています。LBの中には発達検査、発達相談、リハビリ、療育などを受ける子どももいます。今後LBHが、出生病院から始まって症状に応じて様々な機関が連携して子どもに関わる際の共有情報ツールとして有効利用されることを期待したいですし、そのために広範囲の専門職を対象にした講習会をぜひ実施していただきたいと思います。近い将来初診の医療や福祉の関係各機関から、「リトルベビーハンドブックをお持ちでしたら拝見させてください。」と声がかかるほど普及してほしいと切実に思います。

参考文献：小松法子、當山紀子、板東あけみ、中村安秀(2025)「低出生体重児を育てる保護者の母子健康手帳とリトルベビーハンドブックの利用と課題」小児保健研究第84巻第2号